

消費生活のあり方と循環型社会のプロセスを考える

一着なくなった衣服から「購入―活用―廃棄」のあり方を考える学習を通して―

実践にあたっては、以下の仮説をたて授業を構成した。

- ①身近な消費生活と環境の学習において、以下の2点の学習により、**自己の消費生活のあり方を循環型社会のプロセスにおいて考えることができる生徒**が育つ。
- ②着なくなった衣服を「再使用」する効果を考える話し合い活動で、自己の消費行動が環境へ与える効果に気づく。
- ③購入から廃棄まで広げて行動レパトリーを考える話し合い活動で、自己の消費行動が「購入―活用―廃棄」の一連のプロセスで成り立っていることを理解する。

1. はじめに

環境問題が深刻化し、個人のライフスタイルの転換が求められる現在、その社会の変化に対応し改訂された新学習指導要領では「身近な消費生活と環境」について、「社会の変化に対応し、消費者としての自覚や環境、資源に配慮した生活のあり方に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、身近な消費生活の視点から持続可能な社会を展望して環境に配慮した生活を主体的に営む能力と態度を育てる」ことがねらいとされている。

環境教育は、他教科や総合的な学習の時間でも扱われているが、指導内容を比較すると、「自己の消費生活において実践できること」というアプローチが家庭分野独自の視点である。生徒はこれから持続可能な循環型社会を目指してライフスタイルの転換を図らなければならない。そのためにも家庭分野で自己の消費生活を振り返り、日常生活における環境に配慮した行動指針や目標を設定することは重要であり、求められている。

2. 授業における指導の工夫

本実践では、自己の消費生活のあり方を循環型社会のプロセスにおいて考えさせるために、2点の指導の工夫を行った。1点目は、課題を「身近に感じさせるため」の指導の工夫である。題材の設定において、生徒が毎日使用し自分の考えが反映されやすい、「循環」

が見えやすく理解しやすい、今後の実践がしやすいという3点から、「衣生活における消費生活と環境」を設定する。学習過程における話し合い活動で、あえてデメリットを出させることで生徒が本音で話し合う場を設定する。ここで葛藤を起こさせ、意思決定につなげる。

調べ学習については、家庭での聞き取り調査を中心とすることで、生活の中から出てくる知識や知恵、情報を持ち寄らせる。2点目は、「実践的な態度を育てるため」の指導の工夫である。消費者教育で有効とされる「意思決定のプロセス」と「実践しようとする意欲へつなげる学習のプロセス」を融合させた形で学習過程を組み立てた。

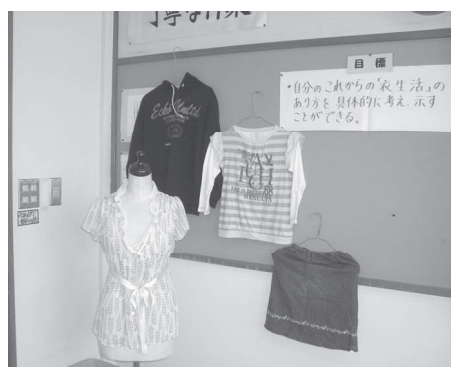
- ①現状把握＝やったことがある、現在実践している行動の把握(調査活動)
- ②分析→価値を見出す
- ③比較考量
- ④解決策のアイデア
- ⑤意思決定1 (現在の自分のあり方, 自己の生活管理)
- ⑥意思決定2 (将来の自分のあり方, 社会参加, 課題の発展)
- ⑦発表・意思表示 である。

3. 実践の結果

「衣服の再使用」とは、おさがりや修理、リメイクなど日常生活で実践されているため考えやすく、その

行動の結果を具体的に予測しやすかったようだ。自己の行動の結果が環境とどのように結びついているのかを考えることにより、生徒は自己の消費行動に対する意識が高まってきた。また、「廃棄」場面でのみ環境問題と関連付けて考えていた生徒が、消費行動を「購入→活用→廃棄」のプロセスでとらえることができ、「購入」の段階で「活用」「廃棄」のあり方まで考えることが環境に配慮した消費行動のスタートになるということが理解できた。

現在と将来の2段階で考えさせた「消費行動の実践プラン」では、各自の現状に応じた具体的なプランを考え、また、将来においては、「今より出来ることが増えるので、もっと環境のことを積極的に考えた行動をしたい」と述べた生徒が多く、自己の理想とする姿を段階的にかつ具体的に考えることができた。



4. 指導計画と展開

時間	学 習 活 動	学 習 目 標	教師支援のポイント
事前	環境問題の現実と原因を知る。 (DVD 視聴)	・大量消費の生活が環境に及ぼす影響を知る。	・環境問題と消費生活の関係のキーワードを提示する。
1次 1時	廃棄衣料の扱い方から、「再使用」する効果から消費生活と環境とのかかわりを考える。	・「再使用」する効果を多面的に考え、環境への効果に気づく。	・付箋を使った話し合いを班で行い、多くの意見を引き出す。
2次 1時	長く使うための「購入」「使用」「廃棄」の行動レパトリーとそのメリット・デメリットについて班で話し合う。	・「長く使う」ための行動レパトリーを考え、その効果と実践上のデメリットをあげて検討することができる。	・班で場面を1つ担当させ、場面の行動を追及する過程で場面の関連に気づかせる。
2次 2時	「購入」「使用」「廃棄」の各場面の行動レパトリーの発表を聞き、プロセスを考える。	・消費行動が、「購入」をスタートとする一連のプロセスであることを理解する。	・班で考えたことを発表させる際は、班毎に問題提起をさせると全体の討議の柱になる。
2次 3時	自己の消費行動のあり方を実践プランとして考える。	・衣生活における自己の消費行動のあり方を循環型社会のプロセスで考えることができる。	・行動レパトリーを追加したり整理することで考えるための選択肢を増やす。

5. おわりに

今回の授業は、自己の消費生活を環境の視点で見直し、今後の消費生活のあり方を考える内容であり、

実践はこれからである。今後の衣食住の学習において、今回の授業を基盤とし、実践するための技術・技能を習得させることで実践へつなげたい。